

No.75

すくらむ

2010.7発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

巻頭言

「『特別支援教育』が意図するもの」

新所長 小嵐 恵子

P2

リーフレットの紹介

●当センターで作成したリーフレット

「通常学級でつくろう！個別的教育支援計画
個別の指導計画」を紹介します。

P3

特別支援教育あらかると

- 高等学校の発達障害支援の要
- 県内高等学校の取組

P4

シリーズ「学校・学級紹介」

今回は、福井県福井東養護学校の水治療法室を
活用した取組を紹介します。

巻頭言

「特別支援教育」が意図するもの

福井県特別支援教育センター所長 小嵐 恵子



「『特別支援教育』とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」

この特別支援教育の定義の中に、私たちが問い直すべき様々な視点があるように思えます。その一つは、「障害に起因して生じる種々の困難の改善・克服のための指導」から、「生活や学習上の困難を改善・克服するための指導と支援」へ転換することについてです。これまでは障害を克服するための力を培うことを重視し、子どもたち自身にその努力と責任を課してきました。しかし自立や社会参加を成し遂げるためには、他者に働きかけ、他者の力を借りて取り組んでいく力を培っていくことも必要なのです。つまり、私たち教師は、子どもたちが自ら対処していく力と、他者の力を借りて対処していく力の両方を培うことが肝要であり、さらには周囲の人たちの

支援を育てていくことも必要だということになります。教師が行うべきそのことは、「適切な指導及び必要な支援」という言葉で表現されています。

適切な指導と必要な支援が、個々の教育的ニーズに従って可能となるために、今、個別の指導計画や個別的教育支援計画が作成されています。その時必要なのは、私たち教師が、この特別支援教育の趣旨に思いを合わせ、子どもたちの教育的ニーズに応える努力をするということです。

「特別支援教育」を単なる名称の変更か、もしくは新しく支援の対象を追加したという捉え方ではなく、教育そのものについて見直すとともに、個々の子どもたちのニーズに基づいた教育が本当に行われているかどうかを問う機会であってほしいと思います。従来の障害児教育の範囲だけでなく、通常教育の在り方にも及ぶものであるはずで、自らの指導の在り方や、学校の在り方を根本から見直していく機会となることを願っています。

リーフレット

通常学級でつくろう！

個別の教育支援計画 個別の指導計画

学校全体で
取り組めます

子どもの理解が
深まります

連携した指導に
必要です



支援内容の
発達に有効です

保護者や外部との
連携に役立ちます

福井県特別支援教育センター
福井県教育庁生涯学習部 特別支援教育課

P1

『通常学級でつくろう！ 個別の教育支援計画 個別の指導計画』発行

特別支援学校や特別支援学級で作成されている個別の教育支援計画や個別の指導計画ですが、通常学級に在籍するお子さんに関しては、なかなか作成が進まないようです。そこで当センターでは、リーフレットを作成し、小中学校の先生方を中心に配付しました。今回は、そのリーフレットに沿って、ポイントをご紹介します。

「個別の教育支援計画」と 「個別の指導計画」って何？

個別の教育支援計画と個別の指導計画の関係図、目的、作成者等を記載しています。

P2

リーフレットは、
当センターの
ホームページから
ダウンロード
できます

つくってみよう！

「個別の教育支援計画」

個別の教育支援計画の作成の手順や
重要なポイントについてまとめました。

個別の教育支援計画

P3

本人・保護者と共につくる

～これまでの支援とこれからの支援を整理する個別の教育支援計画～

本人や保護者等に関する情報を
整理しましょう

- 本人についての基本情報
（生年月日、保護者名、住所・連絡先など）
- 学習の進捗状況の把握・理解に関する
配慮事項
- 生活歴・相談歴について



現在の生活の状況と
将来に向けての希望の
両方を大切に
つくってみよう。

本人・保護者の思いやニーズを
確認しましょう

- 将来の生活についての希望
（進みたい学校・職業）
- 関心・興味

支援の評価をしましょう

- 効果や改善すべき内容、
今後と向き合う内容について記載し、
改善策につなげよう。

学校での支援と家庭での支援の
目標や内容を決めよう

- 今後必要とされる支援を決めよう。
- 学校と家庭での支援内容を整理に
まとめよう。

具体的な支援内容に
対応する児童や
児童を支援しよう

- 学校生活、医療・健康、学習・地域生活など
それぞれにおける支援について整理しよう。

（例）「読書・健康」
当センターの「CQのクリニック」
担当：A先生
連絡先：077-XXXX-XXXX
実施期間：2か月～1年 隔週の定例

④⑤⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

④ ⑤ ⑥を
繰り返してごう！

④ Plan ⑤ Action
⑥ Check ⑦ Actionの
P-D-C-Aサイクルです

つくってみよう！ 「個別の指導計画」

個別の指導計画の作成の手順
や内容を詳細に表しました。気
がかりなお子さんについての
悩みを一人で抱え込まず、話し
合いながら現状を把握し、指導・
支援の方針や目標・具体的な手
立てを個別の指導計画にまとめ
ましょう。

つくってみると… こんなメリットが！

保護者との連携、校内の共通理
解と協力、引き継ぎ資料等…作
成によるメリットを挙げました。

「もう少し詳しく手順を知りたい！」「自分たちもつくってみたい！」…
詳細については、ぜひお問い合わせください！
当センター所員が園や学校へうかがい、校内研修や支援会議のお手伝いをします。

特別支援教育 あらかると

今回は、高等学校における特別支援教育について紹介します。特別支援学校の特別支援教育コーディネーターとして、高等学校からの発達障害に関する相談にも数多く対応されている福井県立嶺南東養護学校の長谷川直子先生にお話を伺いました。また、県内高等学校の特別支援教育の取組についても御紹介します。

高等学校の発達障害支援の 要

福井県立嶺南東養護学校 特別支援教育コーディネーター 長谷川 直子 氏



発達障害者を取り巻く環境は高校とそれまでとは、かなり変わる。まず、本人・保護者・教師が「受験で選ばれたのに」「合格する力があるのに」等の目で障害を見てしまう。発達障害者のつらはペーパーテストではわかりにくい。障害の有無や本人の困り感等の情報が渡されない場合もある。特に、私立や定時制では困っている生徒の割合は高い。次に、授業では、「聞く」、「手を動かす」が主になる。授業中に生徒が自発的に意見を言ったり、参加したりすることが減る。また、教室に入れないことは単位が取れないことにつながる。これらの変化に戸惑う生徒は多い。診断が下りていないと、本人でさえ障害の特性を「悪い性格」と長期間捉えてきたため、自己理解が進みにくい。何より社会に出ること(働く・保護者と離れて生活を整える・他人とコミュニケーションをとる等)への不安をもつのもこの時期である。

私が特別支援教育コーディネーターとして高校で行ってきたことの1つ目は、学校生活への支援や支援者への理解啓発である。時間割管理、大学受験までの見通し作り、行事への参加方法、保護者の相談や、教職員へ向けての研修会など、未来の見通しの前に、今の生活に少しでも自信を持ち、今の自分を理解してくれる人を増やすことである。

2つ目は、教育・医療・福祉関係者との連携である。例えば、発達障害児者支援センターと連携し、働く経験をしてもらった。働くことやコミュニケーションをとることに良いイメージをもつのはとても大切である。

今後、高校への支援で必要なものは、特別支援に対応できる人・環境(発達検査、対応方法、カウンセリング等)の充実である。

支援の要は『人づくり』『人つなぎ』である。本人や支援者が疲れ切ってしまう前に、より一層の支援体制の質と数の充実を願う。



始まっています!

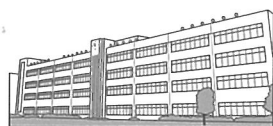
県内高等学校の取組

平成21年度 特別支援教育コーディネーターパースニック研修(高等学校) 研修報告集より



中学校との連携

- ・ **A高校**：合格発表の直後に各中学校を訪問し、中学校での様子を聴取しています。
- ・ **B高校**：学校生活に慣れてきた6月後半ごろに中学校との連絡会を開き、気がかりな生徒についての情報交換を行っています。



校内の支援体制づくり

- ・ **C高校**：気がかりな生徒については、校内委員会で話し合い、その結果を職員会議で報告し、共通理解を図っています。
- ・ **D高校**：気がかりな生徒への支援について、教科担当者会議で話し合ったり、部活動の顧問と相談したりしながら対応しています。
- ・ **E高校**：特別支援教育や発達障害についての職員研修会を行っています。

専門機関との連携

- ・ **F高校**：県や関係機関が主催する高校生を対象とした相談会を活用したり、地域の健康福祉センターと連携して支援を進めているケースもあります。
- ・ **G高校**：特別支援教育センターや特別支援学校の教育相談を活用し、具体的な支援についてのアドバイスを得ています。
- ・ **H高校**：在学中から卒業後まで、支援をつなげていくためにも、就労支援の情報収集や、福祉機関、医療機関等との連携を進め、定期的に支援会議を開いています。

今年度も当センター主催の高等学校の先生方対象の「特別支援教育研修」を県内15校から15名の先生方が受講されています。

福井県立福井東養護学校

本校は平成19年度に県立病院関連施設内の一施設として新しい校舎になりました。今回は、関連四施設内の一つである県こども療育センター内の「水治療室」を使っての学習を御紹介します。

Aコース(肢体不自由とその他の障害を併せ有する子どもたちのコース)の小中高等部の児童生徒は、1年間を通じて週1回、水治療室を利用して、自立活動や遊びの学習をしています。

水治療室とは

- ・ 室温水温とも30～33度に設定されています。体温調整が難しい児童生徒にやさしい温度設定(生理的に一番負荷が少ない温度)です。更衣室にも暖房設備があります。
- ・ 水中ライトが点ります。黄・赤・緑などのライトのゆらめきに気づき、視線を向けたり、顔を向けたりすることにつながります。
- ・ 音楽が流れます。水中スピーカーのそばでは、音の振動を感じることができます。みんなの好きな童謡や癒し系の音楽を聴きながら、リラックスして水中での活動ができます。
- ・ ジャクジーがあり、7分以上つかることで下がった直腸温度がほぼ元に戻ります。



お気に入りの遊び方は

- ・ 腕や首に浮き具をつけると、体がブカリブカリと浮かびます。体が軽くなっていい気持ちです。
- ・ 先生に体を支えてもらって、右へゆらゆら、左へゆらゆら。波が優しく体をなでてくれます。大きなカーブやぐるりと円を描くのも、体の側面が伸びていい気持ちです。
- ・ 手を動かして、水をパシャパシャはじきます。音がして波がたって楽しいです。
- ・ 仰向けになったり、うつ伏せになったり、立ち泳ぎの姿勢になったり、自由自在です。まるで人魚姫になったみたいです。
- ・ 水中に長い台を沈めて、長い台は斜めにとすると滑り台にもなります。
- ・ 友だちの近くに寄ってタッチされたり、ボールのパス回しにも夢中です。

水治療室には、みんなの楽しい声がこだましています。大好きな部屋だと分かっているから、「行こうね」と誘われただけでニコニコしたり、シャワーの音を聞いて体中でうれしそうな気持ちを表現したり、笑顔でいっぱいになる学習です。

お知らせ

平成22年度特別支援教育関連研究大会等

第32回 東海北陸地区特別支援教育研究大会(石川大会)

7月29日(木)～ 7月30日(金) 金沢市

第32回 福井県養護学校教育研究大会

分科会 8月6日(金) 福井大学教育地域科学部1号館

全体会 10月8日(金) 福井大学教育地域科学部
附属特別支援学校

第45回 特別支援教育ゼミナール

8月11日(水) AOSSA

第56回 福井県特別支援教育研究大会(若狭大会)

8月26日(水) 小浜市

第49回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会(鳥取大会)

10月28日(木)～10月29日(金) 米子市

福井県特別支援教育振興大会・青空教室

10月24日(日) 鯖江市

第40回 北信越地区知的障害養護学校教育研究協議会(福井大会)

11月4日(木)～11月5日(金) AOSSA、南越養護学校

研究発表会のご案内

期日：平成23年2月10日(木)

会場：県立図書館 <予定>

発表者募集要項は、9月中旬に配付する予定です。

発表者を
募集して
います。

当センターでは「すくらむ」についてみなさんの
ご意見、ご感想をお待ちしております。

センターだより すくらむ 第75号

発行日 平成22年7月6日

発行所 福井県特別支援教育センター

所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1

TEL(0776)53-6574 FAX(0776)52-6272

E-mail info@fukuisec.jp

URL http://www.fukuisec.jp

福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課

〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205

TEL(0770)56-1095 FAX(0770)56-1391

敦賀駐在 TEL/FAX(0770)24-0421

印刷所 株式会社エクシート